

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 6 報
千葉県農林水産部
平成28年7月29日

「ふさおとめ」の成熟期は8月12日頃からと予測 品種、地域、移植日による生育進度の差が大 ほ場に合わせた作業の実施を！

[生育概況]

4月20日頃に植付した「ふさおとめ」、「ふさこがね」、「コシヒカリ」の出穂期は、平年と比較して2日から3日程度早くなっており、成熟期は早いところで「ふさおとめ」は8月12日頃から、「ふさこがね」は8月17日頃から、「コシヒカリ」は8月25日頃からと予測されます。

また、5月1日頃に植付した「コシヒカリ」の出穂期は平年並となっており、成熟期は早いところで9月2日頃からと予測されます。

なお、7月下旬の低温の影響を受け、5月10日頃に植付したほ場では、出穂期がやや遅くなっています。

表1 品種別の生育進度と成熟期の予測

品種	植付時期	出穂期の 平年比較	成熟期予測			
			県北 (成田市)	九十九里 (茂原市)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)
ふさおとめ	4月20日	やや早	8月16日	8月12日	8月12日	8月12日
ふさこがね	4月20日	やや早	8月21日	8月17日	8月17日	8月17日
	5月1日	並	8月27日	8月23日	8月23日	8月23日
コシヒカリ	4月20日	やや早	8月29日	8月26日	8月27日	8月25日
	5月1日	並	9月5日	9月2日	9月3日	9月3日
	5月10日	やや遅	9月13日頃			
飼料用米(アキヒカリ)	5月15日	—	9月4日頃			
飼料用米(夢あおば)	5月15日	—	9月16日頃			

※成熟期予測は、水稻作柄安定対策調査ほの調査結果から、各品種の出穂期から成熟期の標準的な日数を加えて予測。飼料用米は栽培事例からの予測。

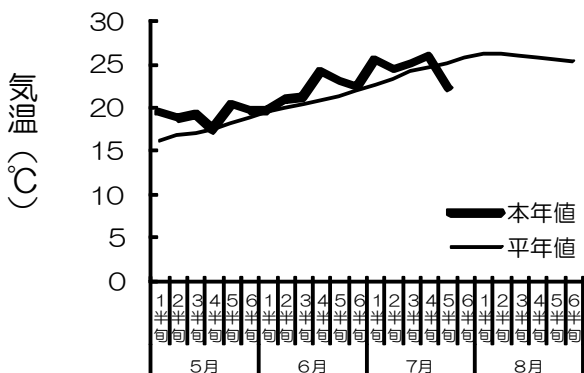


図1 日平均気温の推移 (アメダス、佐倉)

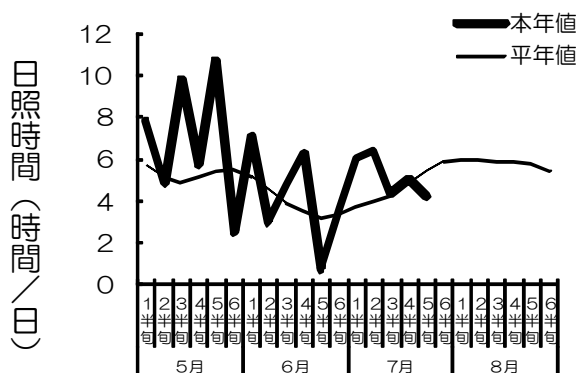


図2 日照時間の推移 (アメダス、佐倉)

[これからの管理のポイント]

■いもち病の防除（葉いもちから穂いもちへの伝染防止）

7月下旬は平年と比較して日照時間が短く、5月植付のほ場で葉いもちの発生が見られます。止葉などの上位葉に病斑が多数見られる場合は、出穂前に防除して穂に感染しないようにしましょう。

出穂期以降も発生が続く場合は、天候等を考慮した上で、出穂期7日後から14日後頃の乳熟期に追加防除します。

薬剤等は、「水稻の生育状況と当面の対策 第4報」（平成28年6月28日）を参照し、収穫前使用日数等に注意して使用してください。

■斑点米カメムシ類の防除（斑点米カメムシ類の多発生に注意）

飼料用米でもカメムシ類をはじめとした病害虫防除は適切に実施しましょう。

穂揃期頃に共同防除を実施した地域においても、その後、出穂期7日後から14日後頃の乳熟期に斑点米カメムシ類が多く見られた場合は、農薬の収穫前使用日数、使用回数に注意し、追加防除を行いましょ。

なお、防除に当たっては、周辺に養蜂場がある場合は粒剤の使用を検討する等、水田に飛翔した蜜蜂に影響がないよう農薬散布に留意しましょう。詳しくは、お近くの農業事務所にお問い合わせください。

■乳白米の発生を防止する水管理（用水を大切に）

利根川水系では取水制限中のため、かけ流し防止や漏水防止を徹底し、用水を大切に使いましょ。

～出穂期14日後までは湛水管理を行いましょ～

気象庁から、7月28日頃に梅雨明けと発表されました。梅雨明け後の高温・水不足に注意し、出穂期14日後までの間は湛水管理をしっかり行い、品質低下を未然に防ぎましょ。

また、その後、出穂期14日後から出穂期25日後までは間断かんがいにし、徐々に田面を固め、コンバイン収穫に備えましょ。なお、排水不良田では、出穂期25日後に田面が露出するよう、出穂期20日後頃を目途に落水を行いましょ。

なお、早期落水は品質低下を招く原因となります。ほ場毎に適切な水管理を行いましょ。

■適期収穫（良品質米の生産のため適期に収穫を）

収穫は、登熟状況を十分に観察し、帯緑色籾歩合15%の時に行いましょ。

（注：帯緑色籾数は生育中庸な10株から主稈と思われる茎の太い穂を選び、不稔籾を除いて数えます。図3参照）

なお、収穫期の目安は、出穂期（全穂数の40～50%が出穂した日）から「ふさおとめ」で33日前後、「ふさこがね」で37日前後、「コシヒカリ」で38日前後です（表1参照）。

早刈りでは青未熟粒、刈り遅れでは胴割米等が発生し、品質・食味を低下させましょ。

また、収穫した籾を3時間以上炎天下に放置しておくと、品質が低下ましょ。収穫後は速やかに乾燥ましょ。

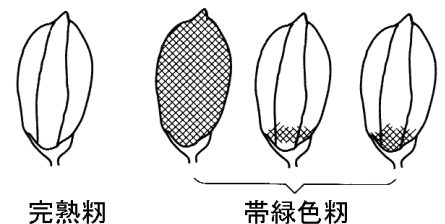


図3 帯緑色籾の見分け方
少しでも緑色の部分があれば、帯緑色籾として数えます。

■ 乾燥は丁寧に、仕上げ水分は適切に

高温による急速な乾燥や過乾燥等は胴割れ米を発生させ、品質・食味を低下させます。乾燥は平均毎時乾減率0.7～0.8%で行い、仕上げ水分は14.5～15.0%とします。

また、乾燥終了直後の、粳の温度が高い状態で粳すりを行うと、肌ずれ米や胴割米を生じるので、十分に放冷し、温度を下げたから行いましょう。

■ 選別には 1.8mm 以上の網目

粒厚1.8mm以上の米は粗タンパク含有率が低く、おいしいお米です。粒が小さい米の混入は粗タンパク含有率を高める原因になるので、選別の網目は1.8mm以上にしましょう。

また、大粒が特徴の「ふさのもち」については、1.9mm以上にしましょう。

■ 飼料用米の収穫・乾燥・調製

○飼料用米の収穫適期

飼料用米の収穫適期は、「アキヒカリ」、「初星」が出穂期から 35～40 日後、「夢あおば」が出穂期から 45 日後頃であり、帯緑色粳歩合は 15～20%を目安とします。

耐倒伏性に優れる「夢あおば」では、収穫適期以降、好天が続くと予想される場合は収穫を遅らせて立毛の状態乾燥（立毛乾燥）を進め、乾燥機の燃料コストの低減を図りましょう。

○飼料用米の乾燥・調製

食味及び外観品質を考慮する必要がないので、区分管理の場合は乾燥時の温度をやや高めに設定して乾燥効率を上げましょう。

また、農産物検査規格が主食用米と異なるため、ふるい分けが必要ありません。このことにより、主食用米と比較し、玄米収量が一般的に2～3%程度増収となります。

■ 異品種混入の防止

異品種の混入を防止するため、品種切り替え時は、コンバイン、乾燥機、粳すり機等をていねいに清掃しましょう。

■ 生産履歴記帳

「売れる米づくり」に栽培管理の記録は不可欠です。集荷団体では、出荷に当たって「生産履歴」（栽培管理記録簿）の提出をお願いしています。もう一度記録簿を確認しておきましょう。

基本技術を励行し、信頼されるおいしいちばのお米を生産しましょう。

過去に掲載した内容、水稻栽培の基本情報、病害虫の発生予察情報等については、千葉県ホームページ「生育情報」を御覧ください。

(<https://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiku/index.html>)